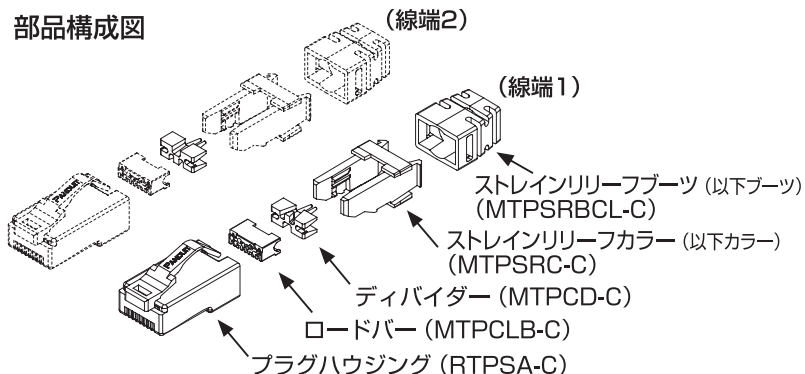


T568B成端手順

部品構成図



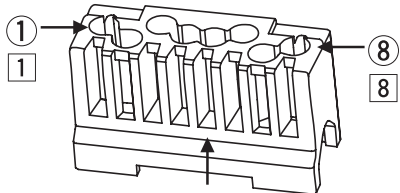
ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568B	茶	茶/白	緑	青/白	青	緑/白	橙	橙/白

■成端仕様

- 外被覆外径 5.72~6.35 φ mm
- 心線径 0.5 φ mm (AWG24) の単線及び撚り線
- 心線絶縁径 1.04 φ mm
- T568B結線は茶色対の対角側が橙色対
- 圧接はMPT5-8又はCT5-8を使用

ロードバー

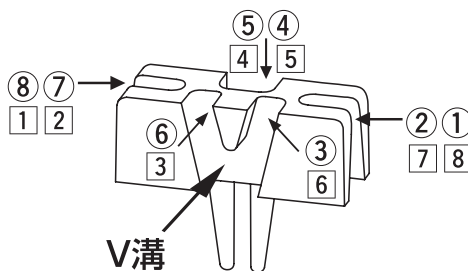
挿入時の向きに注意して下さい



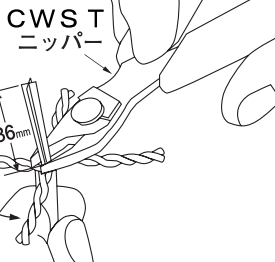
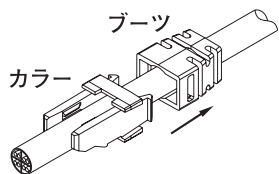
コンタクトが貫通する8個の溝

ディバイダー

V溝とコンタクト番号の位置を確認して下さい



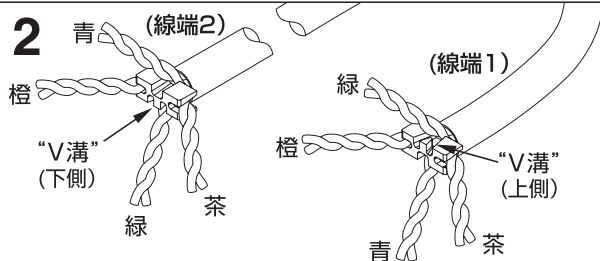
1



◆ブーツとカラーを最初に挿入します。

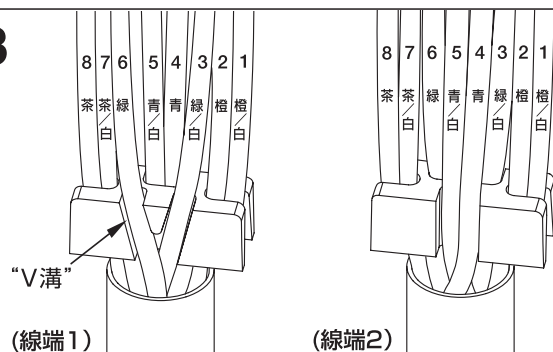
- ◆ ケーブル端から40mmほど外被覆をむきます。
- ◆ 各対を十字方向のように開きます（放射状）。
- ◆ 中央に介在物（十字介在）が有る場合には導線を曲げた根本から4mmほどの所でカットします。

2

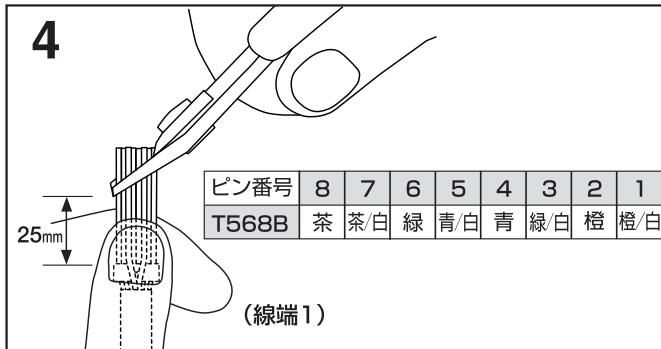


- ◆ 茶色対の対角側が橙色対となるように対の位置確認又は合わせを行い、再度各対を十字に開きます。
- ◆ ディバイダーのV溝と緑色対が合うようにV溝の向きと位置を確認します。（十字介在が有ればディバイダーをその中心部分に差し込みます）

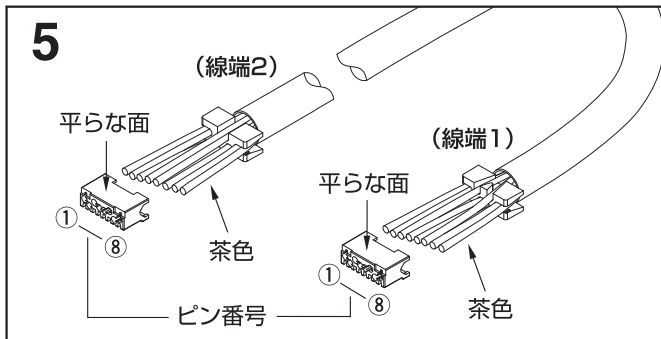
3



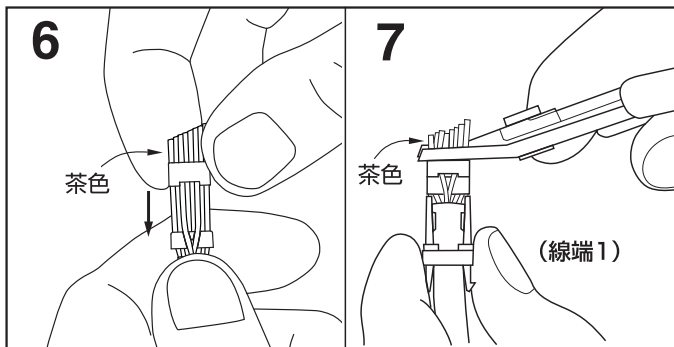
- ◆ 各対をディバイダーの所までよりを戻します。
- ◆ 茶色対をディバイダーの茶色側溝に茶白を先に茶色を後からハメ込みます。
- ◆ 橙色対は対角側の溝に橙色を先に後から橙白をハメ込みます。（7番、8番と2番、1番の溝にハメ込む）
- ◆ 青色対をディバイダー中央小さい方の溝に4番側が青色で5番側に青白となる所で色合わせをします。
- ◆ 緑色対はもう片面のV溝となっている3番側が緑白で6番側が緑色となるように色合わせをします。（4番、5番と3番、6番の溝に合わせる）



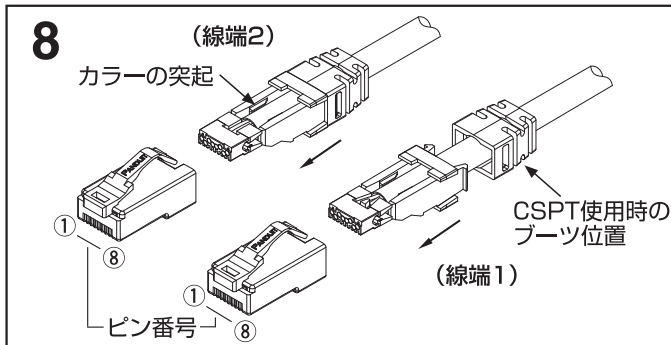
- ◆ ディバイダーを押さえながら各対のよりを戻して導線を真っ直ぐに延ばします。
- ◆ 1番から8番ピンまで一列にしてディバイダーから25mmほど空けて導線を斜めにカットします。(ロードバーの挿入が容易になります)



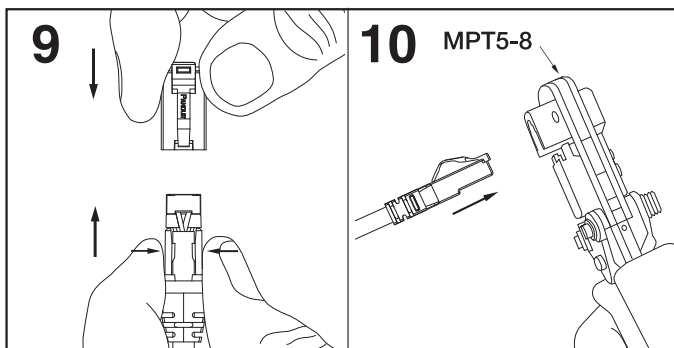
- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーを持ち、ロードバーの平らな面が表になっている事を確認してロードバーを挿入します。



- ◆ ディバイダーとのすき間が出来ないようにしっかりと挿入します。
- ◆ 1番と8番の導線を少し外側に曲げます。
- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーとロードバーを押さえながらカラーの平らの面を表にしてディバイダーまで引き寄せてから、ロードバーの先端で余分な導線をカットします。



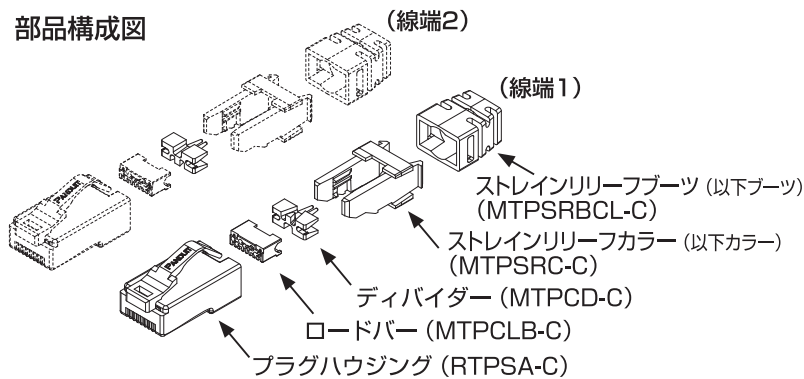
- ◆ 図のようにカラーの向きを確認してハウジングに挿入します。
- ☆挿入を補助するCSPT工具有ります。この工具を使用する時にはブーツは装着しないで下さい。



- ◆ 外被覆がハウジング内に収まるように調整しラッチするまでカラーを挿入します。
- ◆ 圧接工具MPT5-8又はCT5-8を使用して一括圧接します。
- ◆ ブーツを装着して成端が完了します。

T568A成端手順

部品構成図



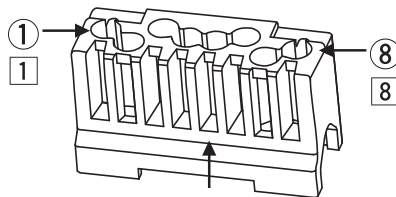
ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568A	茶	茶白	橙	青/白	青	橙/白	緑	緑/白

■成端仕様

- 外被覆外径 5.72～6.35 φ mm
- 心線径 0.5 φ mm (AWG24) の単線及び撚り線
- 心線絶縁径 1.04 φ mm
- T568A結線は茶色対の対角側が緑色対
- 圧接はMPT5-8又はCT5-8を使用

ロードバー

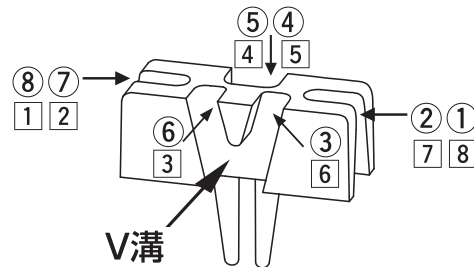
挿入時の向きに注意して下さい



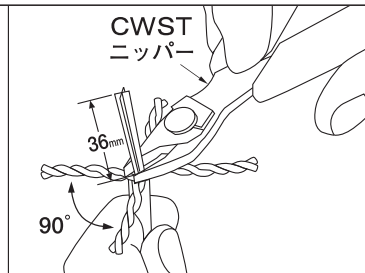
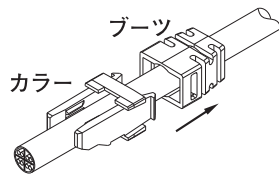
コンタクトが貫通する8個の溝

ディバイダー

V溝とコンタクト番号の位置を確認して下さい



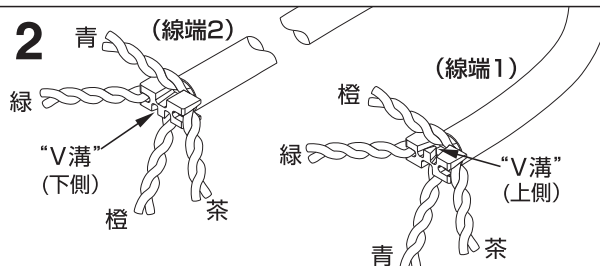
1



◆ブーツとカラーを最初に挿入します。

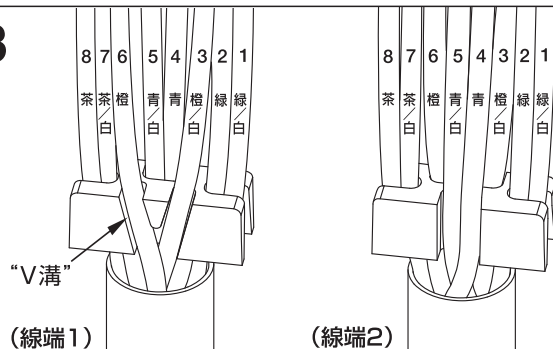
- ◆ ケーブル端から40mmほど外被覆をむきます。
- ◆ 各対を十字方向のように開きます（放射状）。
- ◆ 中央に介在物（十字介在）が有る場合には導線を曲げた根本から4mmほどの所でカットします。

2

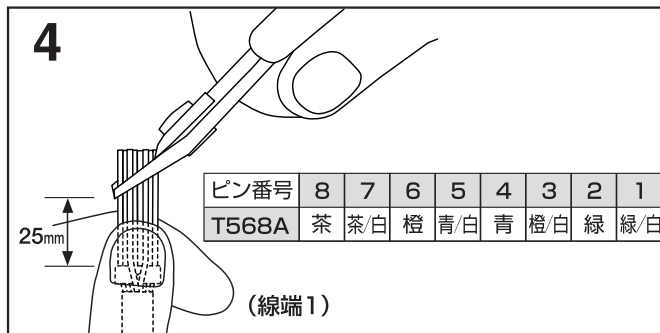


- ◆ 茶色対の対角側が緑色対となるように対の位置確認又は合わせを行い、再度各対を十字に開きます。
- ◆ ディバイダーのV溝と橙色対が合うようにV溝の向きと位置を確認します。（十字介在が有ればディバイダーをその中心部分に差し込みます）

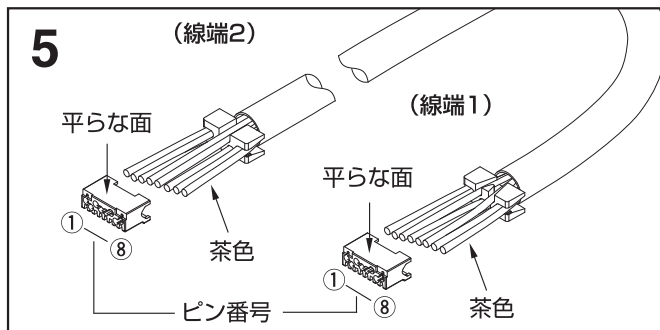
3



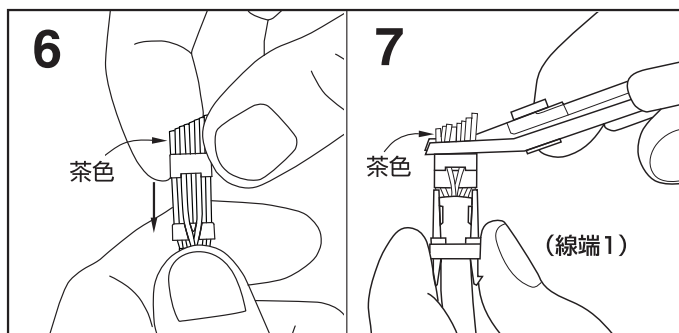
- ◆ 各対をディバイダーの所までよりを戻します。
- ◆ 茶色対をディバイダーの茶色側溝に茶白を先に茶色を後からハメ込みます。
- ◆ 緑色対は対角側の溝に緑色を先に後から緑白をハメ込みます。（7番、8番と2番、1番の溝にハメ込む）
- ◆ 青色対をディバイダー中央小さい方の溝に4番側が青色で5番側に青白となる所で色合わせをします。
- ◆ 橙色対はもう片面のV溝となっている3番側が橙白で6番側が橙色となるように色合わせをします。（4番、5番と3番、6番の溝に合わせる）



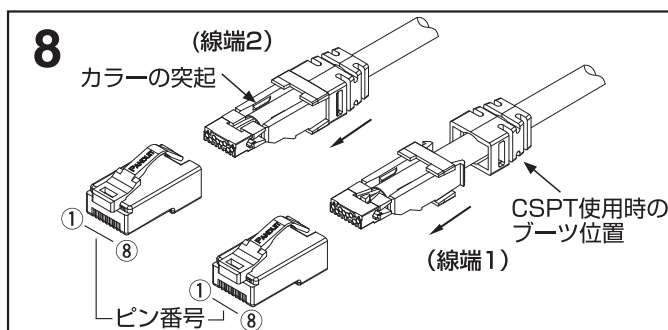
- ◆ ディバイダーを押さえながら各対のよりを戻して導線を真っ直ぐに伸ばします。
- ◆ 1番から8番ピンまで一列にしてディバイダーから25mmほど空けて導線を斜めにカットします。(ロードバーの挿入が容易になります)



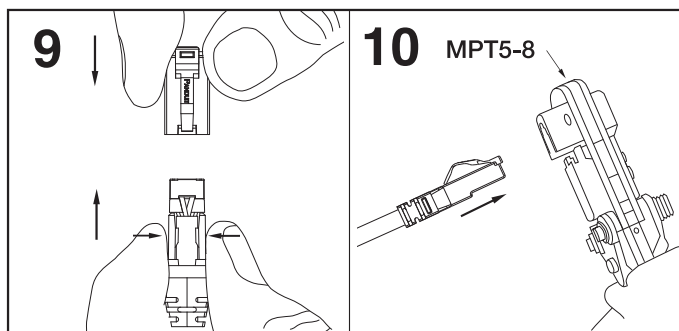
- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーを持ち、ロードバーの平らな面が表になっている事を確認してロードバーを挿入します。



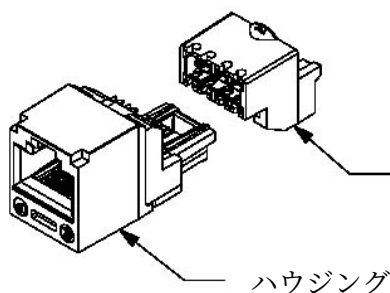
- ◆ ディバイダーとのすき間が出来ないようにしっかりと挿入します。
- ◆ 1番と8番の導線を少し外側に曲げます。
- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーとロードバーを押さえながらカラーの平らの面を表にしてディバイダーまで引き寄せてから、ロードバーの先端で余分な導線をカットします。



- ◆ 図のようにカラーの向きを確認してハウジングに挿入します。
- ☆挿入を補助するCSPT工具有ります。この工具を使用する時にはブーツは装着しないで下さい。



- ◆ 外被覆がハウジング内に収まるように調整しラッチするまでカラーを挿入します。
- ◆ 圧接工具MPT5-8又はCT5-8を使用して一括圧接します。
- ◆ ブーツを装着して成端が完了します。



ターミネーションキャップ
(以下、キャップ)

ハウジング

◆部品番号：

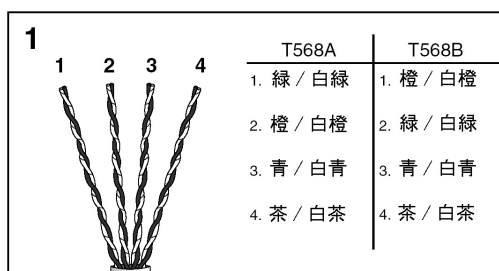
CJ5E88Tシリーズ

CJ688TPシリーズ

CJD688TPシリーズ

■成端仕様：

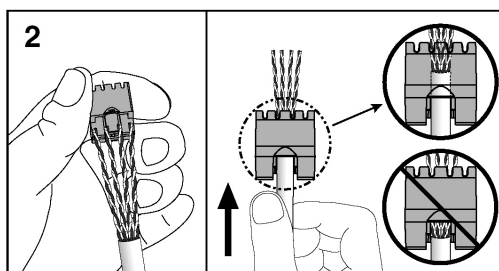
- ・外被覆の外径は $6.5\Phi\text{mm}$ 以下のUTPを設定
- ・導線径は $0.5\sim 0.65\Phi\text{mm}$ (24~22AWG)
- ・導線絶縁径は $0.965\sim 1.2\Phi\text{mm}$
- ・IDCは単線及び導体より心線の成端が可能
- ・T568A及びT568B結線の成端が可能
- ・CGJT工具を使用して一括圧接



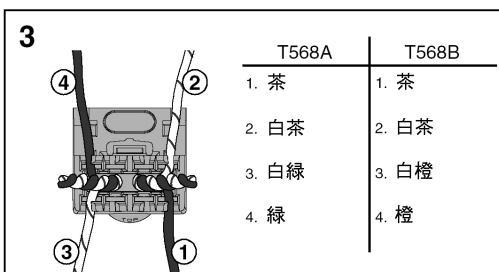
外被覆を30mm程むきます。

一旦4対を放射状に開き十字介在がある場合には根元でカットします。

次に結線仕様に従って対の並び替えを行い1列に整えます。

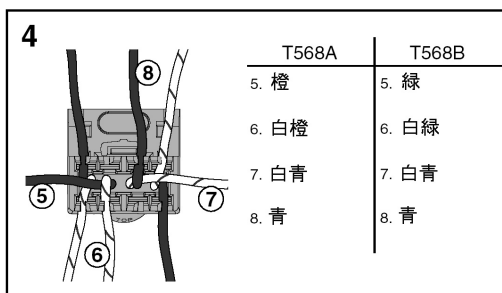


4対導線の先を細め1列に整えてキャップに挿入します。外被覆の先端がキャップの奥までしっかりと入っている事を確認します。中途半端な挿入は望ましく有りません。



図のように①～④の順番に導線をキャップの溝により分けます。より戻しの寸法が最小となるように注意します。

T568A結線で茶、白茶、白緑、緑
T568B結線で茶、白茶、白橙、橙



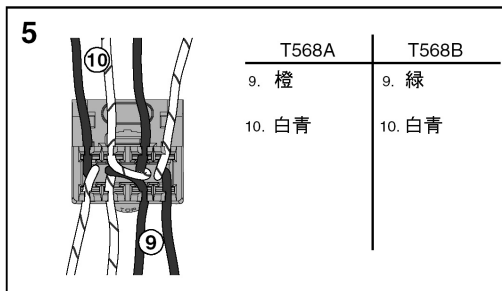
次は⑤～⑧ですが

⑤を一旦引き寄せ⑥を溝により分けます

⑦を一旦引き寄せ⑧を溝によけ分けます

T 5 6 8 A結線で橙、白橙、白青、青

T 5 6 8 B結線で緑、白緑、白青、青

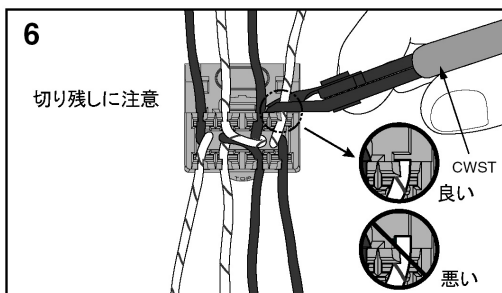


その後は⑨と⑩で

T 5 6 8 Aでは橙と白青を溝に

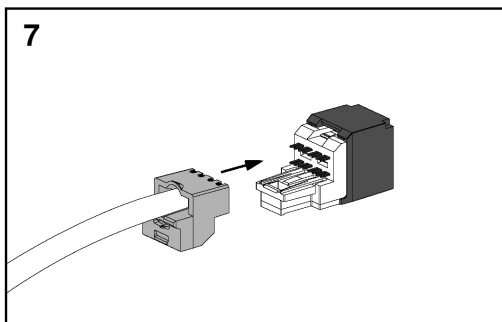
T 5 6 8 Bでは緑と白青を溝に

より分けます。

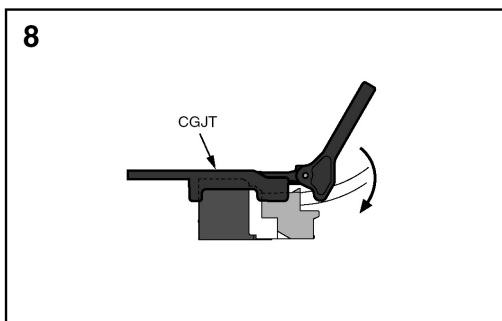


各溝へのより分けが出来ましたら切残しの無いように平らな面の有るニッパで不要な導線をカットします。

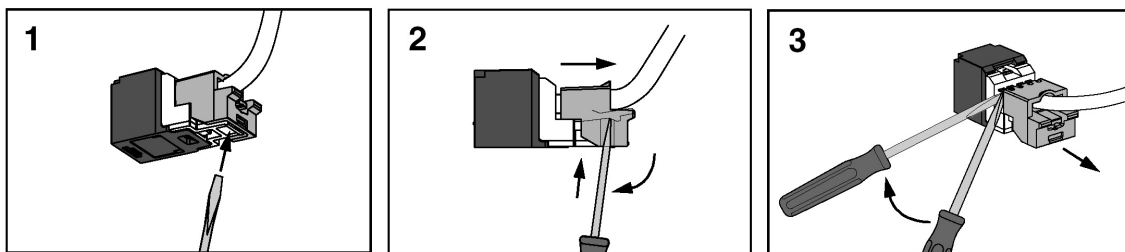
ケーブルの予備加工が完了しました。



ハウジングにキャップを装着し図のように圧接補助工具（C G J T）をハウジングのトップとキャップの後側にあてがって矢印の方法に動かすと一括圧接されます。



キャップ取外し手順



注：再成端は10回以内で同一又はそれ以上の導線径とする

注意事項

下記は、弊社製以外の情報配線用の製品についても適用されます。

1. 雷発生時の施工は絶対にしないでください。
2. 製品が特に耐水、耐湿度に対応して使用可能なものである場合を除き、水に濡れる場所や高湿度の環境においての施工は絶対にしないでください。
3. 配線が稼働中のネットワークから物理的に隔離、切断されていない場合、絶縁されていない配線部やコンタクトに絶対に素手で触らないでください。
4. 配線の施工や修繕の際は、十分に注意して作業を行ってください。